

## インドネシア

- 援助隊11人、事務員・メディカル4人
- 200万ドル(約1億6,000万円)表明
- 毛布

2004年に発生したスマトラ沖大地震・インド洋津波災害の最大被災地バンダ・アチエ市では、東日本大震災を受けて追悼行事が行われ、「最大の援助国だった日本を、今度は私たちが助けたい」というメッセージが読み上げられた。「僕たちも同じように被災した仲間だから悲しまないで頑張る」という励ましの言葉も届けられている。



## カンボジア

- 10万ドル表明(約800万円)

全国各地から首都プノンペンの日本大使館に弔問者があり、「カンボジアのために多くの支援をしてくれたことに感謝しています。日本の被害に心を痛めており、わずかばかりの寄付ですが、被災者の役に立ててください」といったメッセージが届けられた。



## パレスチナ自治区

JICA帰国研修員の呼びかけにより、戦禍にあるガザ地区で開かれた追悼集会。パレスチナ難民キャンプで避難生活を送る子どもたちからも、「以前、青年海外協力隊員から『顔で笑って、心で泣く』というサムライの精神を学びました。時間がきっと少しずつ傷を癒してくれるでしょう」というメッセージが届けられた。



## ケニア

「『ゾウは与えられた牙を支える力がある』とケニアのことわざにある通り、日本の皆さんはきっとこの困難を乗り越えられるはず。なぜならその力を神様に与えられているからです。明るい未来があります。絶対にあきらめないで」。日本が支援してきたケニヤッタ大学日本語学科の生徒が日本語でスピーチ。その後、生徒全員で「上を向いて歩こう」を合唱した。



## パキスタン

- 水、牛乳、高カロリービスケット

2005年のパキスタン北部地震で被災した地元NGOが「日本は常にパキスタンを助けてくれた。すべてのパキスタン人がこの悲しみを共有している」と激励。また、その地震で倒壊した校舎が日本の支援で再建されたことに対し、カシミール地方の女子高校生が「“日本との連帯”の気持ちを表したい」と横断幕を掲げた。



## フィリピン

- 日本の国家試験に合格した3人の看護師含むボランティアチーム(予定)
- 食料品パック、カップめん、バスタオル、マット、防塵マスク
- 2006年に大規模な地滑りで1,000人以上の死者・行方不明者を出したセントベルナルド町。「被災当時に日本から支援を受けた我々が、今度は兄弟である日本にお返しをしたい。1ペソ、5ペソ硬貨でもいい。額は少ないかもしれないが、日本への気持ちを表したい」と募金活動が行われた。



## コスタリカ

日本が支援する小学校の児童が被災地の子どもたちを思い、「コスタリカにも友達がいることを知って元気になってほしい」といったメッセージを送った。「世界の手本であり、愛する日本の危機に少しでも協力したい」という市民からの声も寄せられている。

# 日本に届いた 252の心

— 今度は私 たちの番 —

2011年  
三陸沖を震源とするマグ  
類を見ない大津  
東北地方を中心にたくさんの人  
戦後最悪の災害で日本中が悲し  
世界252の国・地域・国  
そして連帯や信頼の思い。  
日本がODAで支援し  
たくさんの“心”  
世界のみなさん、

3月11日、  
ニチュード9.0の地震が、  
波を引き起こし、  
々が犠牲となった東日本大震災。  
みに暮れる中、届けられたのが、  
際機関からの温かい心、  
今度は私たちが助ける番一。  
てきた国・地域からも、  
が寄せられている。  
どうもありがとう。

出典：外務省ホームページ(2011年4月19日現在)

## セントビンセント及び グレナディーン諸島

「神のご加護がありますように」「早く復興が実現しますように」「日本の皆さんのために祈っています」。青年海外協力隊が活動するカリブ海の小さな島国から届けられた温かいメッセージ。



## チリ

日本が支援してきた津波防災教育の教材が完成し、昨年のチリ大地震の最大被災地に配布されたのが3月11日。奇しくもこの日に戦後最悪の震災に見舞われた日本だったが、まさにその時「チリの防災意識を高める事業に日本が貢献していた」と感謝の念が現地でも広がっている。



- 救助隊
- 支援物資
- 義援金/寄付金
- メッセージ/エピソード\*

\*JICAに寄せられたものも含む。

アイスランド	●	●	コロンビア	●	●	バチカン	●	●
アイルランド	●	●	コンゴ共和国	●	●	パナマ	●	●
アゼルバイジャン	●	●	コンゴ民主共和国	●	●	バヌアツ	●	●
アメリカ	●	●	サウジアラビア	●	●	バプアニューギニア	●	●
アラブ首長国連邦	●	●	サモア	●	●	パラオ	●	●
アルジェリア	●	●	サントメ・プリンシペ	●	●	パラグアイ	●	●
アルゼンチン	●	●	ザンビア	●	●	ハンガリー	●	●
アルバニア	●	●	サンマリノ	●	●	バングラデシュ	●	●
アルメニア	●	●	シエラレオネ	●	●	東ティモール	●	●
アンゴラ	●	●	ジブチ	●	●	フィジー	●	●
アンティグア・バーブーダ	●	●	ジャマイカ	●	●	フィンランド	●	●
アンドラ	●	●	シリア	●	●	ブータン	●	●
イエメン	●	●	シンガポール	●	●	ブラジル	●	●
イギリス	●	●	ジンバブエ	●	●	フランス	●	●
イスラエル	●	●	スイス	●	●	ブルガリア	●	●
イタリア	●	●	スウェーデン	●	●	ブルキナファソ	●	●
イラク	●	●	スーダン	●	●	ブルネイ	●	●
イラン	●	●	スペイン	●	●	ブルンジ	●	●
インド	●	●	スリナム	●	●	ベナン	●	●
ウガンダ	●	●	スリランカ	●	●	ベネズエラ	●	●
ウクライナ	●	●	スロバキア	●	●	ベラルーシ	●	●
ウズベキスタン	●	●	スロベニア	●	●	ベリーズ	●	●
ウルグアイ	●	●	スワジランド	●	●	ベルー	●	●
エクアドル	●	●	セーシェル	●	●	ベルギー	●	●
エジプト	●	●	赤道ギニア	●	●	ポーランド	●	●
エストニア	●	●	セネガル	●	●	ボスニア・ヘルツェゴビナ	●	●
エチオピア	●	●	セルビア	●	●	ボリビア	●	●
エリトリア	●	●	セントクリストファー・ネイビス	●	●	ボルトガル	●	●
オーストラリア	●	●	セントルシア	●	●	香港	●	●
オーストリア	●	●	ソマリア	●	●	マーシャル	●	●
オマーン	●	●	ソロモン	●	●	マケドニア	●	●
オランダ	●	●	台湾	●	●	マダガスカル	●	●
ガーナ	●	●	タジキスタン	●	●	マラウイ	●	●
カーボベルデ	●	●	タンザニア	●	●	マリ	●	●
ガイアナ	●	●	チェコ	●	●	マルタ	●	●
カザフスタン	●	●	チャド	●	●	マレーシア	●	●
カタール	●	●	中国	●	●	ミクロネシア	●	●
カナダ	●	●	チュニジア	●	●	ミャンマー	●	●
ガボン	●	●	ツバル	●	●	メキシコ	●	●
カメルーン	●	●	デンマーク	●	●	モーリシャス	●	●
韓国	●	●	ドイツ	●	●	モーリタニア	●	●
ガンビア	●	●	トーゴ	●	●	モザンビーク	●	●
ギニア	●	●	ドミニカ	●	●	モナコ	●	●
ギニアビサウ	●	●	ドミニカ共和国	●	●	モルドバ	●	●
キプロス	●	●	トルクメニスタン	●	●	モンテネグロ	●	●
キューバ	●	●	トンガ	●	●	ヨルダン	●	●
ギリシャ	●	●	ナイジェリア	●	●	ラオス	●	●
キリバス	●	●	ナウル	●	●	ラトビア	●	●
キルギス	●	●	ナミビア	●	●	リトアニア	●	●
グアテマラ	●	●	南部スーダン	●	●	リヒテンシュタイン	●	●
クウェート	●	●	ニカラグア	●	●	リベリア	●	●
クック諸島	●	●	ニジェール	●	●	ルーマニア	●	●
グルジア	●	●	ニューゼーランド	●	●	ルクセンブルク	●	●
グレナダ	●	●	ネパール	●	●	ルワンダ	●	●
クロアチア	●	●	ノルウェー	●	●	レソト	●	●
コートジボワール	●	●	バーレーン	●	●	レバノン	●	●
コソボ	●	●	ハイチ	●	●	ロシア	●	●
コモロ	●	●						

欧州連合(EU)、欧州評議会、アフリカ連合(AU)、アラブ・マグリブ連合(AMU)、東南アジア諸国連合(ASEAN)、ASEAN諸国、東南部アフリカ市場共同体(COMESA)、民主主義・経済発展のための機構(GUAM)、中米統合機構(SICA)、アジア開発銀行(ADB)、アフリカ開発銀行(AfDB)、アジア・太平洋電気通信共同体(APT)、黒海経済協力機構(BSEC)、生物多様性条約(CBD)事務局、ワシントン条約(CITES)事務局、包括的核実験禁止条約機関(CTBT)、エネルギー憲章条約(ECT)、国連食糧農業機関(FAO)、ファスト・トラック・イニシアチブ(FTI)、地球環境ファシリティ(GEF)、世界エイズ・結核マalaria対策基金(GFATM)、国際民間航空機関(ICAO)、赤十字国際委員会(ICRC)、米州開発銀行(IDB)、国際エネルギー機関(IEA)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、国際穀物理事会(IGC)、国際労働機関(ILO)、国際通貨基金(IMF)、国際海事機関(IMO)、国際移住機関(IOM)、国際家族計画連盟(IPPF)、国際熱帯木材機関(ITTO)、国際電気通信連合(ITU)、国際自然保護連合(IUCN)、北大西洋条約機構(NATO)、国連人道問題調整部(OCHA)、経済協力開発機構(OECD)、国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)、石油輸出国機構(OPEC)、化学兵器禁止機関(OPCW)、欧州安全保障協力機構(OSCE)、国連(UN)、国連エイズ合同計画(UNAIDS)、国連教育科学文化機関(UNESCO)、国連開発計画(UNDP)、国連環境計画(UNEP)、国連環境計画(UNEP)オゾン事務局、国連気候変動枠組条約事務局(UNFCCC)、国連人口基金(UNFPA)、国連人間居住計画(UN-HABITAT)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国連児童基金(UNICEF)、国連工業開発機関(UNIDO)、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関(UN Women)、国連ボランティア計画(UNV)、世界観光機関(UNWTO)、万国郵便連合(UPU)、国連世界食糧計画(WFP)、世界保健機関(WHO)、世界気象機関(WMO)、世界銀行(the World Bank)

出典:外務省ホームページおよびJICA



## アフガニスタン

100万ドル(約8,000万円)表明

首都カブールやパーミヤンなどでお見舞いと弔意を表する集会が行われ、「日本の惨事に対する悲しみを共有する」「これまでアフガニスタンの再建に尽力してきた日本政府と日本国民への支援の用意がある」などの声が上がった。



## モロッコ

JICAシニア海外ボランティアが日本語教師を務める学校の生徒たちから日本語でエールが送られた。「災害は大きかったけど、日本人の意志はもっと大きい。あきらめないでください。」



## ボツワナ

100万ブラ(約1,200万円)

「遠いボツワナからでも助けになりたい」「日本人の勇気を尊敬している」「このメッセージが同年代の子どもたちに届くことを願っている」など、地元の小学生20人が励ましの言葉を寄せた。ポケットの中の小銭を寄付した児童も。



## トルコ

救助隊32人

毛布、シーツ、缶詰、水

「友好国日本の苦しみを共有し、日本が短期間にその傷を癒すであろうと確信している。そして、そのためにあらゆる貢献をする用意がある。日本や日本国民が1999年のトルコ地震に際して支援の手を差し伸べてくれたことを忘れていない」とチチェッキ副首相。被災9日後に駆け付けた救助隊は、宮城県多賀城市などで救援作業に当たった。



日本に届いた  
252の心  
— 今度は私たちの番 —



## モルディブ

長年の支援でモルディブの発展を支えてくれている日本へ。観光業を除けば、モルディブではほぼ唯一の外資収入源であるツナ缶60万食を、日本の被災地へ無償で提供することを決定。首都での追悼行進には約2万人が参加した。



## 南アフリカ共和国

救助隊45人

行方不明者の捜索だけでなく、被災者の希望に応じて倒壊した建物からぬいぐるみや衣類などを回収した救助隊「Rescue South Africa」。「半ばあきらめていたのうれしい」と住民から感謝の声。



## モンゴル

救助隊12人

100万ドル(約8,000万円)

毛布、セーターや靴下などの防寒衣

モンゴル政府からの100万ドルは、外国の災害に対する義援金としては過去最高額。また、国家公務員全員が月給の1日分を義援金として寄付することも決定されている。岩手県を被災4カ月前に訪れていた元JICA研修員は「東北の美しい山々の風景を今でも思い出す。この度の地震と津波により皆様が大きな被害を受けたことに強く心を痛めています」とお見舞いを寄せている。

## タイ

1億2,500万バーツ  
(約3億5,000万円)

毛布、寝袋、缶詰、懐中電灯、マスクなど

バンコク最大のスラム街など国内各地でたくさんの募金活動やチャリティーイベントが行われ、義援金とともに千羽鶴を持参した企業もあった。また、人気歌手バード・トンチャイ氏によってチャリティーソング「明日のために」が制作された。YouTubeで視聴可能。



## ホンジュラス

日本の支援が行われている首都テグシガルバ市内の小学校の児童約100人が、大使館前に設置された横断幕に被災者へのメッセージを綴った。また、JICA事務所のナショナルスタッフやその家族らの提案で、被災地の様子を伝える写真展示や募金活動も行われた。



## エルサルバドル

エルサルバドルのフェネス大統領は、同国で活動中の41人の青年海外協力隊を招き、日本を激励する式典を開催。隊員に対し、「日本が提供してくれた計り知れない支援について忘れることはできない。同胞が苦しみ、家族の状況が心配される中、多くの隊員がボランティア活動の継続を望んでいることは私たちに感動を与える」などとメッセージを送った。



※各国・地域などからのさらに詳しいお見舞いメッセージと支援状況は、外務省(www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/)またはJICA(www.jica.go.jp/information/disaster\_msg/)のホームページでご覧になれます。